

## 加美町総合戦略審議会 会議録 (第14回)

1. 開催日時 令和2年3月23日(月) 午後1時30分～午後2時15分
2. 開催場所 加美町役場3階 第1会議室
3. 出席委員 9名  
風見 正三, 大場 幸, 後藤 利雄, 鎌田 良一  
寺川 成子, 宮内 佳樹, 伊藤 嘉則, 菅原 尚孝  
岸田 紗季
4. 欠席委員 5名  
跡部 香名, 吉田 玲子, 塚田 浩志, 中村 威  
清野 仁子
5. 傍聴者 1名
6. 事務局 4名  
加美町長 猪股洋文  
加美町副町長 高橋 洋  
加美町ひと・しごと推進課 課長 相澤栄悦  
地方創生推進係長 菅原 敏之
7. 会議の概要 - 次 第 -
  3. 議事  
事務局から第2期加美町まち・ひと・しごと創生総合戦略の最終案を説明。質疑等はなく、原案をもって答申することが承認されました。
  4. 答申  
風見会長から猪股町長へ第2期加美町まち・ひと・しごと創生総合戦略について答申しました。なお、答申にあたり3つの意見(①町民の声を傾聴すること、②執行プロセスの明確化、③マネジメントサイクルの強化)を付帯しております。

## □ 会議概要

### ・あいさつ（風見会長）

時代の変わり目にあることを感じる。令和となったこともあるが地球全体で1つの課題を考えている時代を迎えている。人類がどういう英知をもって社会を変えていくのか、その中で加美町の総合戦略、より具体的に指標も含め、暮らしを豊かにしていくのかを考える重要な会議であったと考えている。今回の審議会は副会長に任せることが多く大変失礼しました。今日の会議を持ちまして答申に至ったことに敬意を示します。長期的な戦略は立案が難しいが、未来の子どもたちへの思いを残していくことだと思う。これまでの歴史を振り返り、未来をどのように築いていくかを考えるとこれだけでは全然書き足りないのですが、皆さんの活発なご意見によりまとめることができました。今日、報告できることを大変うれしく思っています。

### ・議 事

----- 事務局から最終案を説明 -----

風見会長：総合戦略の根幹にあるのは総合計画です。笑顔、幸福が加美町のシンボルとして掲げられている。それを地方創生としてどう具現化していくか、住民が幸福を感じられる町にしていくか。今回の戦略には、幸せ、生き抜く、コミュニティ、地域ということがしっかりとうたわれている。心の問題として住民が幸福を感じているかは指標建てることは難しいと思うが、住民が笑顔で幸福を感じている町づくりに期待をしたい。

それと、戦略が地域でどのように生かされていくのかが重要です。アウトドア、パラリンピックのホストタウン、心のバリアフリー、ユニバーサルツーリズムなど、これからの地域を考える上では非常に重要な着眼点を抑えていると思う。それをきちんと住民レベルまで落としていただきたい。今後の課題は街並みです。街並みの考えについて日本はヨーロッパに追い付いていない。景観について共通のビジョンを持つことで地域の愛着も育まれていく。景観という意味で、世界農業遺産や自然景観、歴史景観、文明など風土を築いてきた日本の素晴らしい景色が加美町には存在している。

総合戦略として1冊にまとめることができたが、まだまだ書き足りないところもあると思う。総合戦略だけではまかないきれない。しかし総合戦略が基軸となり、いろいろな施策に反映されることを期待している。

それでは、答申案について各委員に意見を伺いますが、ご意見のある方は。

----- なし -----

風見会長：ご意見なしということで原案のとおり答申してよろしいでしょうか。

----- 異議なし -----

風見会長：それでは原案のとおり答申することに決定しました。

#### ・ 答 申

風見会長：第2期加美町まち・ひと・しごと創生総合戦略について答申いたします。本審議会において慎重な議論を重ね、意見を付して答申いたします。今般の持続可能な地域づくりにあたり、加美町の持つ大変美しい自然の維持しながら、地域に活力を取り戻していくために息の長い取組みが必要と思います。また持続可能な地域づくりには協働の視点も重要であり、この答申を基に地域の方々の意見に耳を傾けていただき総合戦略を進めることをお願いいたします。2番目として5年間という節目はありますが、これまでの検証を踏まえ、取り組むべきもの改善すべきものを明らかにし、是非とも住民参加の機会を大切にされた戦略というものをお願いしたいと思います。また3番目として、総合戦略は根幹となるもので総合戦略だけに取り組むのではなく、総合戦略から派生し、さらにPDSAサイクルを活用して事業の進捗管理、評価、特に検証、KPIの状況を管理しマネジメントサイクルの徹底をお願いいたします。

----- 風見会長から猪股町長へ答申 -----

猪股町長：答申いただき感謝申し上げます。5年を振り返るとイカノエ戦略を中心に地方創生に取り組み、一定の成果を上げることができたと感じています。移住定住については、町の制度を活用して168人の移住者を迎え入れ、国立音楽院の学生も開校から3年が経過し80人を超え、半分は町で暮らしている。学校がなければ加美町に来ることもなかった人たちです。今年12名が卒業され就職先へ巣立っていく。学生から「加美町に来てよかった。学校を作っていただいたことに感謝している。必ず加美町に遊びにくる」という声をいただいた。国立音楽院の事例は文部科学省の廃校活用事例30選に選ばれ、さらに廃校マッチングイベントにも登壇、日経新聞も取り上げるなど国から評価をいただいている。岸田委員も協力隊を卒業して加美町で就農し定着されたが、生産年齢人口について国の予測となる社人研推計

よりも上回っており、確実な成果が生まれている。今後もしっかりと人口対策に取り組んできたい。

また、地域資源である音楽を基軸としたまちづくりでは、第1弾としてバッハホール管弦楽団を設立した。今度、バッハホール管弦楽団とチリ青少年オーケストラの共演が決定している。復興ありがとうホストタウンのイベントとして開催するもので国から提案を受けた。チリには18の青少年オーケストラがあり10,000人以上が在籍しているとのこと。管弦楽団とのコラボにより音楽のまちの発信に期待している。さらに、第2弾として国立音楽院の誘致。国立音楽院の関係では、イタリアのクレモナで国立バイオリン製作学校の日本人初のマエストロを務め、38年間イタリアでバイオリン製作の第一線で活躍されている松下敏幸さんが来町された。その方の夢は日本に音楽の村をつくること。空き家に楽器工房が入るような地域を目指しており、意気投合した。音楽のまちづくりの第3弾として取り組んでいきたい。音楽のまちづくりの深化として、新たな仕事を、加美町で音楽の仕事をつかっていきたい。新年度には、加美町の空き家を借りて、野菜作りをしながら国立音楽院で音楽療法を学ばれる学生が入学される。まさに私が提唱してきた半農半音楽を実践される方だ。

そのほかにも、5年間の取り組みの深化と新たな展開を進める。アウトドアの分野で外国人の地域おこし協力隊を任用する。観光に新たな展開を期待する。第2期の総合戦略では幸せを感じられる町が盛り込まれている。これからの観光は「感幸」都市を目指していく。

農業やエネルギーでは予定通り進んでいるものと、進んでいないものがあるがこの5年間は確かな土台となった。しかし、この5年間の地方創生は町主導であり、町民を巻き込んでいくという視点が足りなかった。今後は、ユニバーサルタウン、コミュニティ戦略として地域を取り込みながら地方創生の歩みを進めていく。それには地域運営組織が大事となる。今年中に旭地区に第1号を立ち上げ、加美町全体に広げていきたい。その中で景観や自分たちの地域は自分たちで守っていくという思い、それぞれが自分の地域に誇りを持てるような、そういうことを念頭において地域運営組織を進めたい。

様々な課題が山積している。10年で7千人が減少し、さらなる減少も見込まれている。財政も国からの交付税が縮減されている。しかし、不安だけではなく、明るい希望を持ってチャレンジしていくことが大事と考えている。中身の濃い答申に感謝申し上げる。

・閉会（大場副会長）

今回の審議会には14名中9名が出席された。このような世相の中、足を運んでくれたことに感謝。第2期の総合戦略が達成できるよう見守りながら町民の1人として関わっていきたい。以前の宮城県知事であった山本壮一郎氏は退任時に、県政を退化なく過ごせた。超えてはならないことは超えず、超えるべきものは超えてきた。話し合ったことが生きるよう切にお願いしたい。年度末のご多忙の中、さらには会合自粛ムードの中集まっていたことに心から感謝申し上げる。

— 午後2時15分 閉会 —